

編集後記

本号の巻頭言はの北田俊行教授にお願いいたしました。

ブリッジ・レスキュー・システム（BRS）と題して、老朽化した橋梁の維持管理重要性和橋梁業界（技術者）のその維持管理に対する役割について貴重なご意見を頂いております。先生にはご多忙のところ玉稿をお寄せ頂き、誠に有り難うございました。誌面を借りまして厚く御礼申し上げます。

近年、鋼橋の損傷・老朽化に伴う維持管理・延命化が問題として取り上げられており、昨年のアメリカ・ミネソタ州におけるトラス橋の落橋事故、国内のトラス橋の腐食損傷報告等により、一般にも橋梁の維持管理の重要性が多少なりとも認知され初めております。一方で、現在の日本の国家は「ものづくり」を決して重要視しておらず、結果として若年層の工学離れ、技術者不足が加速しており、我々の橋梁業界を取りまく環境も非常に厳しいものとなっております。しかし、我々は、社会生活の安全・安心を守る社会資本整備に関わる中で社会貢献に寄与しており、仕事に誇りを持つべきであると考えております。また、一般にも早期に橋梁業界の重要性が認知され、それに見合った評価がなされることを期待すると共に、対外的な啓蒙活動の推進と技術の継承に努たいと考えております。

その一環として、このように技報において、宮地の新設橋梁の開発・設計・架設から既設橋梁の補修に至るまで幅広い技術を報告することは非常に大切なことであります。今後も更なる技術研鑽を進め、より多くの成果を報告し、橋梁に関する技術の向上に貢献できれば幸いです。

最後になりましたが、執筆者を始め多くの関係者の御協力により本号を発刊することが出来たことに感謝致します。

宮地技報編集委員会

委 員 長	金 原 慎 一			
副 委 員 長	太 田 武 美	百 瀬 敏 彦		
委 員	上 原 正	熊 谷 正 道	小 林 祐 輔	
	米 崎 倫 和*	鈴 木 義 孝	中 村 佐 吉	
	永 見 研 二	永 谷 秀 樹*	西 垣 登	
	松 本 泰 成	宮 崎 好 永	村 上 貴 紀	
	矢 崎 満	矢ヶ部 彰	山 越 信 也	
	吉 川 薫			

*印 事務局兼務

宮地技報 第23号

発行日 平成20年3月31日

発行所 株式会社宮地鐵工所

〒103-0011 東京都中央区日本橋大伝馬町7番5号

(豊和大伝馬町ビル) TEL 03(3639)2111(代)

印刷所 望月印刷株式会社